

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部局名	産業経済部	
	課名	農政課	
	係名	農業係	
	記入者		電話(内線) 187

1. 事業の概要				
(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続	(2) 事務事業 の名称	環境にやさしい農業推進事業	(3) 事業の 優先度
				A
(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体		市
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・ 財源等 の種別		事業の性質 一般事業費(ソフト事業)
② 施策コード	31301 (総合計画掲載 ^ハ - ^ジ 89 ^ハ - ^ジ)	会計区分		一般会計
基本目標(政策)	3 歴史と自然を育む活力あるまちづくり(産業)	財源区分		市単独
基本施策	1 元気あふれる農業の振興(農業)	予算科目		款 6 項 1 目 4
施策	農村環境の保全	予算書上の 事業名称		園芸振興事業費 (予算書 118 ^ハ - ^ジ に掲載)
施策内容	減農薬栽培の普及	(8) 事務分類		自治事務
(5) 事業期間	開始 平成 19 年 4 月から 終了 年 月まで (カ年)	根拠法令		

2. 事業の目的及び内容	
(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
①市内園芸作物生産農家に害虫の一斉防除を呼びかける。 ②農家に緑肥用麦を配布する。	①一斉防除が広く定着することで、農薬の削減と害虫被害が軽減し、環境に配慮した農業及びコスト削減による安定した農業経営が推進される。 ②緑肥用麦を使用した埃対策と土壌づくりの効果を実感してもらう。ひいては、農家自らが緑肥を施用するよう働きかける。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
①市内12箇所にフェロモントラップを設置してチョウ目害虫の発生状況を調査し、その結果を基に効果的な防除時期を予想し、対象者に周知する。 ②圃場における冬季の埃防止及び土壌づくりのため、緑肥用麦を購入し、希望農家に配布する。	①効果的な害虫防除と農薬削減につながることから10年ほど前から開始された。 ②緑肥の効果を実感してもらうべく、数年前から実施している。
(5) 事業をとりまく環境の変化 (社会環境, 市民ニーズ等) や市民・議会の要望, 意見等とそれに対する対応	
安心安全で低農薬の農産物や環境に配慮した農業への関心が年々高まっている。	

3. 事業コスト					
行政評価 実施計画	実績内容の評価 検討・改善				
検討・改善内容を反映					
● 予算内訳	実績額 (千円)	当初予算額 (千円)	計画額・見込額 (千円)		
	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
事業内容					
環境にやさしい農業推進	339	340			
茨城県農林振興公社負担金	880	998			
施設園芸研究会補助金	87	87			
農業用廃プラ協議会補助金	80	80			
会議等出席負担金	42	49			
合計	1,428	1,554			
(1) 事務事業費の コスト 財源	国庫支出金 (千円)				
	県支出金 (千円)				
	地方債 (千円)				
	その他特定財源 (千円)				
	一般財源 (千円)	1,428	1,554		
	合計 (千円)	1,428	1,554		
補助・起債制度名					

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）				単位	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
指標の名称									
(1) 活動指標（実施した事業の内容）									
指標名	①フェロモントラップの設置	目標値	箇所		12	12	12	12	
		実績(見込)値		12	12				
	②緑肥配布量	目標値	トン		8,000	8,000	8,000	8,000	
		実績(見込)値		8,000	8,000				
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）									
指標名	①農薬散布回数(慣行では12~16回程度)	目標値	回		6	6	6	6	
		実績(見込)値		6	6	6	6	6	
		達成率		100.0 %	100.0 %				
	②配布回数	目標値	回		1	1	1	1	
		実績(見込)値		1	1	1	1	1	
		達成率		100.0 %	100.0 %				
5. 事業評価									
(1) 平成26年度の行政評価結果をうけて、平成26年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。									
①誘殺数の重量算出やデジタルカメラによる粘着板の撮影等調査の効率化。 ②申し込みから配布までの事務作業の効率化。									
(2) 項目別評価									
評価項目・客観的評価				理由					
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	①事業が定着しており、農家にとって必要性が高い。 ②事業が定着しており、農家にとって必要性が高い。					
妥当性	実施主体の妥当性	B	どちらとも言えない	①市、県、JAで調査を行っているが、生産者への移行も視野に入れている。 ②事業を終了し、生産者への移行を視野に入れている。					
	手段の妥当性	B	どちらとも言えない	①十分な効果が得られているが、他害虫の調査が必要か見当が必要。 ②緑肥の効果の検証を詳しく実施していない。					
効率性	コスト効率 人員効率	B	どちらとも言えない	①実施主体の移行による人員及び経費削減が必要か検討の余地がある。 ②事業終了について検討の余地がある。					
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	①農家組合をとおして、各農家への周知を行っている。 ②農家組合をとおして、各農家への周知を行っている。					
有効性	成果の向上	A	上がっている	①一斉防除の増加に伴い、農薬の削減、害虫被害の軽減が図られている。 ②緑肥を施用した圃場が増加している。					
進捗度	事業の進捗	A	順調である	①一斉防除を行う農家が増加している。 ②緑肥を施用する農家が増加している。					
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。									
①②有効性や効率性は高く、それに伴い必要性も確立されている。 ①実施主体の移行、もしくは、チョウ目害虫以外の他害虫の調査の検討。 ②効果の検証について詳しく調査できていない。									
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？									
①実施主体を農家に移行した場合のシミュレーションを行う。 ①他害虫の調査についてのシミュレーションを行う。 ②事業の終了を検討する。									
6. 事業の方向性判断									
評価主体		27年度以降の事業の方向性			評価理由・根拠				
(1) 記入者評価	記入者が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)			注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価	担当課長が評価を行う	改善・改革しながら継続(成果向上・コスト維持又はコスト削減、成果維持・コスト維持又はコスト削減)			多くの農業者より強力と支持を得ながら、一斉防除が広く定着していますが、環境に配慮した農業を図るため、なお一層の協力を得るなどの改善をしながら継続が必要である。				
(3) 最終評価	企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				